

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870600719		
法人名	株式会社 ジェイコム		
事業所名	グループホーム まなべ		
所在地	西条市氷見乙769番地 (電話) 0897-57-6151		
管理者	中原 千加子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 6 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 86.1 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路より少し入った住宅地に建ち、閑静で落ち着いた環境にある。ホーム内に段差はなく、花や利用者と職員手作りの作品を配し、季節感や生活感を工夫している。協力病院は運営法人の系列で、道路を隔てて近隣にあり、毎週の往診とともに24時間体制が取られ、医療面でも安心感がある。管理者は、ケアや運営について現状に満足せず前向きな姿勢で職員との意思疎通を図り、サービスの質の向上を目指している。暮らしぶりや健康状態などについて、独自の報告書と「ホーム便り」で家族に毎月知らせている。防災マニュアルを作成し、定期的に

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
評価結果を職員全員で共有し、各自課題を出し合って外部評価の結果とあわせて改善計画表を作成し、できることから改善に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
全職員が自己評価に取り組み、各自の課題を改めて認識した上で日々のケアを振り返り、サービスの質の向上に努めている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
市担当者、地域住民代表者、家族らを招き、2か月毎に開催している。利用者の暮らしぶりやホームの取り組みなどを紹介し、参加者から入浴の工夫や災害対策などの要望や意見を出してもらい、サービスの向上に活かしている。会議を通して、行事等地域の情報がより多く得られるようになっており、地域との交流や行事参加が進んでいる。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の訪問時や運営推進会議上で常に問いかけ、出された意見や要望を運営に反映している。意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の文化祭、落語会などのイベントや祭りへの参加、中学生の体験学習の受け入れ、しめ縄づくり等を通しての小学生との交流、利用者が楽しみにしている神輿や演芸ボランティアの受け入れなど、積極的に地域との連携を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム まなべ

(ユニット名) 1階 フロアー

記入者(管理者)
氏名 中原千加子

評価完了日 平成 20 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営理念は玄関のホールや各階に掲示している。また職員の名札の裏にも書いてあり、いつでも確認することができる。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を盛り込んだ運営法人の理念を、ホームの基本理念としている。	※	地域密着型サービスとはなにかについて学習の機会をもちたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念はむつしく書かれ具体性に欠けるが、日々のケアにおいては、ケース会で具体的に介護計画を立て、利用者がいきいきとした安心できる時を過ごせるよう、前向きに取り組んでいる。 (外部評価) 各ユニットのリビングに基本理念を掲示し、管理者と職員は各自名札の裏面にも明記して理念の実践に取り組んでいるが、ユニットごとの特性を踏まえた取り組みが見えにくい。	※	理念を具体化し、全員で共有し介護に当たりたい。 基本理念の実践に向けて、ユニットごとの特性を活かした具体的な目標を作成することを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 家族にはそうした理念を理解していただくような取り組みをしたことはないが、散歩の折りに地域の人と話したり、挨拶したりスーパーへ買い物に行くなど、地域の一人として生活していることは知っていただいている。運営推進会議ではホームの理念について説明している。		家族会や面会時の機会をとらえ、理念について理解を求めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩に出かけ挨拶を交わし、顔見知りになっている。畑の手入れなどの協力がある。また、花の苗を持ってきてくださる方もいる。クリスマスにはろうそくを作ったから使ってと持ってきてくださる方もいる。		ホームに閉じこもらないようにしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議を開催しているおかげで、地域の情報がわかり地域の行事に参加することが多くなった。文化祭やおまつりなどは積極的に参加している。中学生の職場体験学習も受け入れている。 (外部評価) 地域の一員として回覧板が回ってくる。また、地区の文化祭や祭りに参加したり、歌と演奏ボランティアの訪問、しめ縄作り等を通しての小学生との交流、中学生の体験学習受け入れなど、地域との交流に努めている。運営推進会議を通じてさらに地域の情報が得られるようになり、地域とのつき合いが発展してきている。	※	情報を集め、地域の行事に参加し、交流したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 管理者も職員もホーム利用者の事が精一杯で、地域の高齢者に役立つようなことはできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) サービス評価の意義はほぼ全員が理解し、全員が自己評価に取り組んでいる。また、昨年度の外部評価報告書を全職員が読み、改善計画を立て、少しずつであるが改善に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 評価の意義を認識し、自己評価を職員全員で取り組んでいる。外部評価結果は全員で共有し、自己評価を通して新たに出された課題とあわせて改善計画書を作成し、できることから具体的な改善に取り組んでいる。	※	それぞれの評価を、積極的にサービス向上に活かしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議でホームの取り組みやサービス内容を説明している。そこでの意見により地域の行事に参加したり、防火意識が高まった。 (外部評価) 市担当者、地域住民代表者、家族等を招き、2か月毎に開催している。議題に利用者の暮らしぶり、ホームでのケアやサービス、職員の活動状況、家族会の報告等を挙げている。参加者からももらった、入浴支援や災害対策に対する意見や要望をサービス向上に活かしている。開催案内は家族全員に毎回出している。	※	職員に運営推進会議で話されたことを伝え、サービス向上に活かしたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 行政や地域包括支援センターには利用者のことや法的なことではわからないことがあれば相談をしている。また介護相談員の毎月の訪問もあり、助言をいただいている。 (外部評価) 市担当者、地域包括支援センター職員等と、相談を通して行き来し、サービスの質の向上に互いに取り組んでいる。		相談を密にしたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は研修を受けているが、職員は学ぶ機会がなかった。利用者の中に成年後見制度を利用されている方がいるが、きちんとした説明がされていない。		学習に取り組みたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、社内のケース会等で話し合ったり、意識の徹底をおこなっている。また、虐待はないと思うが、見過ごしていることもある可能性をふまえて、日々の職員の関わり方や、利用者の表情、身体観察を行っている。		虐待をしない・見逃さない。職員間で互いのケアをチェックしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、管理者が面談し、施設内の見学や十分な説明を行い、納得の上で契約していただいている。また、退去時も十分な説明と理解の上で行われている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入浴時や訪室したときなど、一対一になる機会にそれとなく利用者の話しやすい場面を作っている。介護相談員さんが毎月訪問してくれ利用者の相談にのっていただいている。その意見を参考にし、運営に反映させている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、個々の日常生活報告書を送付している。ホーム便りを作成し、送付している。また、健康状態は異常があれば直ちに電話で連絡している。年1回の健康診断の報告も医師の報告書を送付している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態を担当者が記録した「日常生活報告書」、イベントでの利用者の様子や職員の異動のお知らせなどを掲載した「ホーム便り」を、毎月家族に送っている。また、金銭管理については毎月末に領収書を添付して報告している。	※	職員の異動に関しては、ホーム便りで報告したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や来館時に意見等を聞いている。聞いたことは職員間で話し合い、申し送りノートや朝・夕の申し送りで徹底している。運営推進会議に家族にも参加していただいて意見を述べる機会を設けている。 (外部評価) 家族等の訪問時や運営推進会議上で常に問いかけ、出された意見はホーム内のケース会で話し合っって運営に反映させている。玄関に意見箱を設け、また重要事項説明書には相談苦情窓口を明記している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会で意見や提案を聞く機会を設け、検討し、反映させている。また日々の申し送りの中でいろいろなことを話し合っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員不足により、毎日最低限の人数でしか勤務が組めていない。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者は異動はできるだけ最小限にとどめている。ユニットの職員はほぼ固定化し、慣れ親しんだ職員が介護している。新しい職員の紹介は、全員集まる昼食時に行っている。 (外部評価) ここ半年は職員の異動もなく落ち着いている。異動や離職の際は担当者が引継ぎをし、全員揃う昼食時に新任者の自己紹介をするなど、ダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や勉強会にはできる限り参加しているが十分とはいええない。資格取得に関しては、配慮している。 (外部評価) 県グループホーム連絡協議会に所属し、職員には研修会や勉強会の情報を回覧で知らせ、受講機会の提供・費用助成を行い、受講を奨めている。職員の資格取得についても計画的に段階に応じて奨励している。職員は報告書を作成し、全員が共有できるようにしている。	※	新入社員へ十分な研修をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の研修会に参加している。同法人のグループホームとの交流は行事の時くらいである。		各グループの主任会を定期的に行い、現場の意見交換をしたい。
			(外部評価) 市介護相談員連絡会主催の会に管理者が参加したり、運営法人内施設との会議に出席し、内容をホームの各ユニットのケース会で報告し、職員に内部的な啓発としている。相互訪問など、職員が交流する機会は持たれていない。	※	
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 月1回のユニット会や日々のミーティングで管理者と職員が話す機会を設けストレスをためないようにしている。が、ストレスや悩みに対する専門的な解消法は行われていない。職員個々がストレスをためないように努力している。		運営者は、職員がどのようなストレスを抱えているのか理解して、その解消に取り組んでほしい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自のよいところをのばす努力をしている。		向上心をもてるようそれぞれのよいところを引き出してほしい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人・家族との面接の機会を設け、お話を聴いている。が、本人が話すことは少ない。家族の意向を聴くことの方が多い。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 電話や面接で丁寧に対応し、家族の困っていることやこれまでの経過、今後どのようにしたいかなどを傾聴している。またホーム見学等の場合は、管理者、職員ともに丁寧な対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることや不安なことを、じっくり聞き、入居できるまで他のサービス利用を勧めたり、他施設の紹介などを行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に、家族や看護師、ケアマネ等と一緒に見学に来ていただき、お茶を飲みながら職員や入居者と談笑する時間をもうけ、少しでも不安感を和らげる努力をしている。 (外部評価) 管理者が利用者の自宅や入院先を訪問したり、家族にホームの見学をしてもらい、家族等と相談しながらサービスの利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の得意とする家事と一緒にする中で、職員も利用者も助けたり、助けられたり関係を築いている。利用者にしていただいたときは感謝の言葉を職員は常にしている。 (外部評価) 職員は、利用者と日々共に過ごす中で楽しみを共有したり、利用者から教えてもらったり、労わりの言葉をかけてもらうなど、相互に支えあう関係を築いている。		調理、洗濯物干し、掃除等一緒にしながら、利用者・職員がお互い様という気持ちを持ち続けたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の来訪時には、利用者の様子を細かく説明したり、職員が行っていることも説明するなどして家族に安心していただけるよう努力している。家族と連絡を密にし、思いを共有することに務めている。	※	家族や本人の事はまだまだ理解不足である。個別の情報シート作成中である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の来訪時は、日常生活を報告し、家族と利用者の会話が弾むよう努めている。また、本人が電話をかけたり、家族からかけていただいたりするなどして、よい関係が築けるよう支援している。		自宅へ電話。年賀状を書くなど今後も続けたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前から行っていた美容院にタクシーを利用し行っている利用者や昔の仕事仲間が訪問してくれる方もおり、なじみの関係がとぎれないよう努力している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士、気が合う人合わない人がいたり、不穏な人を怒る人もいるが、職員が間に入って、調整役を務めている。またテーブルの席も人間関係を考えて座っていたい。	※	1階、2階の利用者同士の関わりをもっと増やしたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去後、継続して関係を持つことはほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 折りにふれ、会話の中で希望や意向を聞くように心がけている。本人に聞けない場合は、家族に意向を尋ねている。 (外部評価) 食事やおやつ、入浴時の会話等の中から、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。また、把握した情報はカンファレンスで話し合い、把握が困難な場合は全職員で本人本位に検討している。		職員の判断で、物事をすすめていることがあるかもしれないので反省の機会を持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人と昔のことを話したり、家族や親戚の方の訪問時にお話を聞くなどして情報の把握に努めている。また、ケアマネからも情報をいただいている。	※	本人・家族の話したくないこともあるので、対応には十分気をつけた。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペースで無理なく過ごしていただいている。朝、入浴時などバイタルサインチェックをし、状態把握に努めている。また、できることの発見に努め、やってみてできたことは、職員がその情報を共有することになっている。	※	一人ひとりの体調やリズム、生活習慣に合わせ個別の援助をしていくように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いや希望、家族の意向などは日頃の関わりの中で聞き、介護計画に生かしている。計画作成者が介護計画を立てそれをもとに全職員が話し合っている。モニタリングやプランの見直しは、月1回のケース会で行っている。 <hr/> (外部評価) アセスメントを基にセンター方式を採用し、個別カンファレンスで課題とケアのあり方を話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		介護計画は、家族には承認していただいているが、本人へは説明不足。きちんと話す努力をしたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケースカンファレンスを毎月行い、プランの見直しを行っている。また、状態が急に変わったときは、朝の申し送り時に話し合い（早出、日勤、夜勤、ホーム長）変更したことを申し送りノートに記入し、共有することになっている。 <hr/> (外部評価) ケース会で利用者の情報を確認しながら、3か月毎に見直しを行っている。また、状態の変化に応じてその都度見直し、現状に即した新たな計画を作成し、本人・家族に確認してもらっている。		家族と一緒にプランを検討する機会をもちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 細かな記録や情報の共有は、個別の生活記録や日誌でなされている。また、申し送りや申し送りノートによって情報は共有されている。		個別記録を介護計画の見直しに活かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) グループ内の病院や特養への相談や照会など柔軟に対応している。買い物や通院も柔軟に対応している。 (外部評価) 現状では要望はないが、その時々に応じて柔軟な支援をしていく姿勢がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 老人クラブが催し物の参加を呼びかけて下さるので、参加できるような催しであれば参加している。移動図書館が、ホームの駐車場に来るので本や紙芝居、絵本などを借りたりしている。		公の機関やボランティアなどホーム協力者を増やしたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 家族の他施設利用の希望があれば、関連施設へ相談している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員に参加していた関係で、相談する機会が増えた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者、家族が希望するかかりつけ医の往診が毎週あり、病院との連絡は密にしている。体調が悪いときはかかりつけ医へ電話相談し、職員介助で受診している。家族へは電話で連絡している。その他の病院受診は基本的には家族同行。 (外部評価) 適切な医療を受けられるよう、歯科医や眼科医への受診も支援し、ホームの主治医に報告している。		状態の変化を見逃さず主治医に報告したい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同グループ内の病院に神経内科があり、2週間に1回あるいは4週間に1回の受診をし、指示や助言を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員が利用者の日常の健康管理を行っている。看護職員がいないときは、かかりつけ医の病院の看護師に相談し、助言をいただいている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、ホームでの入院前の情報を提供し、お見舞いを欠かさないようにしている。入院中は本人の情報を先生や看護師にいただき、退院後の生活については、家族も含めて話し合っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合は、他の施設を紹介し、申込をしていた。終末期はホームでと言う家族の期待や希望があるがまだまだ話し合いは不十分である。 (外部評価) 重度化対応・終末期ケア対応指針を作成し、法人内の病院と連携して24時間体制でのケアが可能な体制を整備しているが、現段階では重度化の際には他施設を紹介している。家族はホームでの看取りを希望しており、早い段階からの本人や家族との話し合いと方針の共有が必要であるが、十分とはいえない。	※	今後どのようにしていくか家族や主治医、職員と話し合わなければならない。 家族や本人と、入居時の早い段階、また状況の変化に応じて話し合いを重ね、急変時や重度化への方針を共有していくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 最期までホームで見てほしいと言われる家族もいるが、全ての家族と話し合いができていない。管理者も職員も終末期の利用者を看ることに力不足である。状態が悪くなったときは同グループ内の病院への入院を考えている。		看取りについて管理者・職員の学習や意思統一、かかりつけ医と支援の方法等話し合わなければならない。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 施設を移られた場合は、一日の過ごし方や生活パターン、支援の内容や介護方法、注意することなど情報提供を行い、これまでの生活が継続できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 接遇について学び、本人の誇りを傷つけないようなこえかけや対応に心がけている。また、ユニット会の折りに、自分たち言葉かけや対応はこれでいいのか話し合う機会を持っている。 (外部評価) 管理者及び職員はプライバシー保護の重要性を認識しており、プライバシーを損ねるような声かけや対応をしていない。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員は利用者の好みや希望をおおよそわかっているし、本人が理解できるこえかけを心がけている。が、意志と異なることもみられる。	※	利用者が自分で決めるまで待つ姿勢を持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日のスケジュールはあるが、おおよそ一人ひとりのペースに合わせた生活になっている。朝食の時間はそれぞれ異なり無理強いしない。また、体調に配慮したり、過ごす場所や一緒に過ごす人は利用者次第であるので、リビングへ誘うこえかけはするが無理強いはない。 <hr/> (外部評価) 基本的な1日のスケジュールはあるが、食事や外出支援など、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援している。		本人のペースで自由に過ごしていただけるよう支援したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 毎日の衣服の選択などは本人の意思や好みを聞き入れ支援している。自分の望む理容・美容院へ行っている方は少数である。ほとんどの方は職員が希望を聞きながらカットしている。利用者の方から職員に切してほしいとの希望がある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者のできることを大切に、下ごしらえや片づけなど共に行っている。食事は入居者、職員が同じテーブルで楽しくいただいている。 <hr/> (外部評価) 調理の下ごしらえ、味見、盛り付けなどを利用者と職員が一緒にし、共に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。	※	食事の準備に利用者の力を引き出したい。献立は希望を聞いていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 酒、たばこをたしなむ利用者はいない。飲み物はある程度希望を叶えている。おやつは同じものを準備している。本人がほしいと言われるものは、個人的に買ってきて楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを理解し、トイレ誘導を行っている。できる限り、布パンツで過ごせるよう介助している。		トイレ誘導をいやがる利用者への対応を考えたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ほぼ毎日の入浴を心がけている。入浴を拒否される方には無理強いはいしない。入浴中はゆったりと時間をかけ、利用者の満足していただけるよう配慮している。二人だけになるので利用者の本音を聞けることもある。 (外部評価) 入浴時間は毎日の午後を基本として対応している。入浴の苦手な利用者には、声をかける職員を変えてみる、利用者同士お気に入りの人とおしゃべりしながら入浴を楽しめるよう配慮するなど工夫している。	※	改めて一人ひとりの希望やタイミングを把握し、作業でなく、心地よい入浴時間を楽しんでいただけるようにしたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間眠られない利用者には、心地よい疲れを感じることができるよう日中の活動を促している。また、午後の休息は、本人の体調や気持ちをくみ取りながら支援している。夜間寝つきが悪いときは、職員と話したり、温かい飲み物を飲んでいただいたりしている。		夜間眠ることを無理強いしないようにしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 自分の好きなことや得意とすることで力を発揮していただいている。また散歩や買い物、行事への参加など楽しい事への参加や変化のある生活を心がけている。 (外部評価) 調理の下ごしらえや準備・洗濯物干し・掃除など、役割を担ってもらうことで生活の張り合いになるよう支援したり、祭りへの参加、正月・誕生日・クリスマスなど季節ごとの外出・行事などで楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	※	個々の利用者の役割、できることをもっと増やしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の利用者しか金銭は使用していない。	※	個人で金銭を持つての外出を計画したい。(買い物、食事など)
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 個別に外出の希望を叶えることは難しい。集団で季節折々には出かけている。天気の良い日には散歩や日光浴を楽しんでいる。また、ホームの庭に机と椅子を出して、昼食を楽しむなどしている。 (外部評価) 近くのスーパーへの買い物、散歩や、毎月のドライブに出かけ、時にはホーム前の広い駐車場で昼食を取るなど、一人ひとりの希望にそって支援している。		柔軟な勤務体制で希望を叶えられるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別の希望を叶えることはできていない。家族にお願いしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望にそって自由に電話や手紙のやりとりは行っている。年賀状なども家族へ出せるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間をもうけず、いつでも立ち寄れるよう来やすい雰囲気作りに努めている。訪問時は居室で気兼ねなくはなせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する学習会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。が、転倒の恐れは常にある。		言葉の拘束をしないよう気をつけていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にも居室にも鍵をかけることはない。常に入居者全員の居場所を確認し、もし外出される方がおれば、一緒についていくなどしている。 (外部評価) 居室や玄関には鍵をかけず、玄関にチャイムをつけている。職員は利用者の居場所を常に把握し、見守りを行っている。		利用者の自由な暮らしを考え、心理的に圧迫をしないように今後も鍵はかけないようしたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者の所在を確認しながら、見守りをしている。また夜間は1時間毎の巡回をし、物音がすれば様子を見に行き、夜間も安全に過ごせるよう配慮している。		職員は常に全員が確認できる位置にいるように心がけたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 家庭でものを片づけるのと同様の考えで、それぞれのものが決められた位置に納まっている。必要なときに出して使い、使うときは見守りをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 誤嚥や転倒を未然に防ぐ手だてとして口腔体操や下肢筋力を維持する歩行などに取り組んでいる。ヒヤリハットを記録しているが、教訓が充分活かされず同じ事を繰り返すことがある。		事故報告書が充分活用されていない。活用を再検討したい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当や、救急救命法についてマニュアルはあるが、周知徹底はされていない。	※	消防署の協力を得て、応急手当や救急救命法の研修をしたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難誘導訓練や通報訓練、消火器の使い方など定期的に訓練している。また運営推進会議でも災害対策について話し合い、協力を求めている。 (外部評価) 消防署の協力のもとで定期的に防火・避難訓練を行うとともに、防災マニュアルを作成して毎月ホーム独自の防火訓練を実施している。運営推進会議を通して地域の災害対策への理解が進みつつある。法人内施設間の協力体制はあるが、地域の防災組織の整備が待たれる。	※	防火訓練は行っているが地震や水害時どのようにするか意思統一や訓練の必要がある。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 下肢筋力の衰えている利用者が多いため転倒の恐れが常にあることを家族に伝え、筋力維持のため、散歩や外気浴などを取り入れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状態を職員は把握しており、食欲や、顔色、様子などから普段と異なればバイタルチェックを行い、様子観察をしている。記録や申し送りで情報は共有している。また主治医にも報告し、相談している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が利用者が飲んでる薬について把握できるようお薬票を整理している。薬が追加されたり、量が変わった場合は、全職員が往診記録表で確認している。薬の追加や変更時は様子観察し、主治医に報告している。		一人ひとりが飲んでる薬の効用や副作用をもっともつと理解しなければならない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表に記入し、全員が排泄確認ができるようにしている。また、申し送り時には、排泄については詳しく申し送りをしている。便秘に対しては体を動かしたり、食事や飲み物に気を配るなどしている。		運動や水分補給などをして排便のない場合はセンナ茶や下剤、洗腸にたよっている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きのこえかけや介助を行い口腔ケアに努めている。また寝る前は義歯の洗浄を行っている。口腔ケア実施の記録をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べることの楽しさを味わっていただきたいとの思いから食事には気を配り、自分のペースでゆっくり味わいながら食事を楽しんでいただいている。食事摂取量は十分であるが、水分量が不足していると思われる。	※	水分補給には気をつけているが、出されたものを全て摂取されないので方法を考えたい。
			(外部評価) 季節の食材を取り入れるなどの工夫をしながら、職員が献立をたてている。普通食の摂取が困難な利用者にはゼリー状の食品を用意するなど、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。毎日食事摂取量を記録しているが、水分量の記録はない。	※	一日を通じて必要量を確保できるよう、一人ひとりの摂取の記録について検討することを期待する。また、献立を栄養士等にチェックしてもらう機会をもつことを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に関して学習し、予防や対策を取っている。手指の消毒や手洗いうがい、掃除などに取り組んでいる。また、利用者も職員もインフルエンザの予防接種を受けている。		加湿器をリビングに設置している。また毎日キッチンハイターを使ってふき掃除をしている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具は漂白し、清潔や衛生を保つようにしている。また冷蔵庫も定期的に掃除をしている。食材は在庫表を作成し、常に新しいものを購入するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に椅子を置き、履き物を履き替えやすくしている。また花を飾ったり、利用者が作成した貼り絵などを掲示し、明るい雰囲気作りに努めている。庭には花や野菜を植え、家庭的な雰囲気がある。また、犬を飼っているのも普通の家のようなものである。		小さい畑と庭。そして犬。それらは小さいホームに似合っていると思う。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、ちぎり絵などを壁面に貼り、季節感を感じていただいている。また台所が独立しておらず、リビングと一体となっているために家庭的な雰囲気である。 (外部評価) 玄関やリビングには季節の花や利用者の作品を飾り、生活感や季節感がある。ホーム内に段差はなく、広い廊下は車いすも使いやすい。窓を多く取っているが外の騒音もなく、明るく落ち着いた空間である。		トイレがリビングに近いのでトイレでの会話が聞こえることがある。気をつけたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはテーブルが3つ備えてあり、利用者同士の適度な距離が保てるようにしてある。また廊下にはソファをおいてくつろげるようにしている。		利用者がいつでも手に取れる場所に本棚をつくりたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は個人の気に入ったものを、気に入った場所に配置している。仏壇や写真等利用者にとって大切なものもある。 (外部評価) 整理筆筒、テレビ、いすやテーブルなど使い慣れた物や位牌を持ち込み、家族や本人の写真、観葉植物なども飾って本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 部屋の臭いがこもらないように天気の良い日は窓を開け、換気に努めている。朝掃除をするときは必ず窓を開け、換気しながら掃除をしている。冷暖房は、利用者の状態を観察しながらこまめに行っている。		換気扇の効果的な使用をしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差の解消や手すりの設置など基本的な設備は整っている。身体レベルの低下と共に椅子の変更やシルバーカーの購入などを行い安全と自立の確保に努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、浴室などはそれぞれ張り紙をしそれとわかるように工夫している。		プライバシーの事が取りざたされているが、居室に名前を貼ることで、自分の部屋と名前と字の確認ができています。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇に花を植えたり、畑の野菜を収穫したりと楽しみながら活動できる環境である。また、車いす利用者も簡単に外に出られる構造になっていて外気浴などを楽しんでいる。		裏庭の活用法を考えたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日常会話の中で傾聴することにより、意向をつかんでいると判断した。意思表示が困難な方もいらっしゃいますし、職員の自己満足的なところもあると思う。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ②	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食は1時間かけ、共にゆったりと過ごしている。また、日光浴の時など一緒にゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝の起床時間や朝食の時間、自室での休憩時間などはそれぞれのペースで過ごしていただいている。しかし、入浴やレクリエーションなどは職員側のペースで勤めているように思う。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔やありがとうという言葉で応えてくれる利用者がある。が、もう少しゆっくりと接することができたらもっとよくなると思う。また、利用者はもう少し支援してほしいという気持ちもあるのではないかと思います。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者本人の希望で外出できる方は少ない。職員が提案した場所や時間での外出である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ②	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医が毎日処置のため来訪しているの、異変があれば相談できる。また病院がすぐ側にあるためいつでも受診できる。環境を整え、転倒しないように気をつけているが100パーセントそれが無いとはいえない。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスがたまっていると職員が感じた場合、一人ひとりにあわせたストレスの解消に努めている。できる限り希望は叶えるよう努力している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ②	1 ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時や電話をかけたときにできるだけお話を聴くように心がけ、信頼関係を築くよう努力している。面会にも来られず、事業所に全てを任せられる家族もいらっしゃるが、毎月、日常生活は報告させていただいている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	近隣の方が訪問してくださったり、野菜を持ってきてくださったりする。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域で行われる行事に声掛けをしてくださり、参加するようになった。グループホームの存在を地域の方々に知ってもらい、ホームの理解者が少しずつではあるが増えている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	少ない人数で業務に追われ不満やストレスを抱えている。が、利用者の前では笑顔で対応している。自己の目標や目的意識を持つことが大切である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時その時では我慢もしたり、不満もあると思うが、元気に穏やかに生活できていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	来館される家族はほとんど決まっているが、面会時にいただく言葉でそのように思う。不満な思いもあろうかと思うが、言葉にできないのではないだろうか。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

認知症を正しく理解し、それに基づいて利用者様の態度、行動、感情を受け止め、状況を適切に判断し、対応しています。人としての尊厳を重んじ、共に生活すると言う意志を持って、日々利用者様と向き合っています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームまなべ

(ユニット名) 2階フロアー

記入者(管理者)
氏名 中原千加子

評価完了日 平成 20 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営理念は玄関のホールや各階に掲示している。また職員の名札の裏にも書いてあり、いつでも確認することができる。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を盛り込んだ運営法人の理念を、ホームの基本理念としている。	※	地域密着型サービスとはなにかについて学習の機会をもちたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念はむづしく書かれ具体性に欠けるが、日々のケアにおいては、ケース会で具体的に介護計画を立て、利用者がいきいきとした安心できる時を過ごせるよう、前向きに取り組んでいる。 (外部評価) 各ユニットのリビングに基本理念を掲示し、管理者と職員は各自名札の裏面にも明記して理念の実践に取り組んでいるが、ユニットごとの特性を踏まえた取り組みが見えにくい。	※	理念を具体化し、全員で共有し介護にあたりたい。 基本理念の実践に向けて、ユニットごとの特性を活かした具体的な目標を作成することを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族にはそうした理念を理解していただくような取り組みをしたことはないが、散歩の折りに地域の人と話したり、挨拶したりスーパーへ買い物に行くなど、地域の一人として生活していることは知っていただいている。運営推進会議ではホームの理念について説明している。		家族会や面会の機会をとらえ説明していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩に出かけ、挨拶を交わし、話をしている。また散歩の途中で花をいただいて帰ることもある。隣の方が、庭の畑に野菜作りを手伝ってくださり、利用者は収穫の喜びを味わっている。		地域の方と会話ができるよう、外出の機会をもっと増やしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の文化祭や年忘れ落語会、老人クラブ主催の小学生との注連飾り作りなどの行事に参加し、地域の方々と交流している。またお祭りは地域の一員であることをうれしく思う日である。小学生の訪問や中学生の職場体験も受け入れている。 <hr/> (外部評価) 地域の一員として回覧板が回ってくる。また、地区の文化祭や祭りに参加したり、歌と演奏ボランティアの訪問、しめ縄作り等を通しての小学生との交流、中学生の体験学習受け入れなど、地域との交流に努めている。運営推進会議を通じてさらに地域の情報が得られるようになり、地域とのつき合いが発展してきている。		情報を集め、地域の行事などに参加したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 管理者も職員もホーム利用者のことが精一杯で、地域の高齢者に役立つようなことはできていない。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) サービス評価の意義はほぼ全員が理解し、全員が自己評価に取り組んでいる。また、昨年度の外部評価報告書を全職員が読み、改善計画を立て、少しずつであるが改善に向けて取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 評価の意義を認識し、自己評価を職員全員で取り組んでいる。外部評価結果は全員で共有し、自己評価を通して新たに出された課題とあわせて改善計画書を作成し、できることから具体的な改善に取り組んでいる。	※	自己評価や外部評価を活用し、サービス向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議でホームの取り組みやサービス内容を説明している。そこでの意見により地域の行事に参加したり、防火意識が高まった。	※	運営推進会議で話されたことを職員に伝え、サービス向上に活かしたい。
			(外部評価) 市担当者、地域住民代表者、家族等を招き、2か月毎に開催している。議題に利用者の暮らしぶり、ホームでのケアやサービス、職員の活動状況、家族会の報告等を挙げている。参加者からもらった、入浴支援や災害対策に対する意見や要望をサービス向上に活かしている。開催案内は家族全員に毎回出している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 行政や地域包括支援センターには利用者のことや法的なことでわからないことがあれば相談をしている。また介護相談員の毎月の訪問もあり、助言をいただいている。		
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター職員等と、相談を通して行き来し、サービスの質の向上に互いに取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている入居者がいるにもかかわらずそのことについての学習がされていない。	※	地域包括支援センターの協力を得て学習会を持ちたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、社内のケース会で話し合うなどして意識の徹底をしている。物理的な虐待だけでなく、精神的な虐待をしないよう、職員お互いの言動に気をつけたり、利用者の表情、身体観察をしている。		虐待をしない強い意志を持ち、職員同士のケアを点検していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、管理者が面談し、施設内の見学や十分な説明を行い、納得の上で契約していただいている。また、退去時も十分な説明と理解の上で行われている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者は不満や苦情を職員にストレートにぶつけてくる。職員はその都度、穏やかに気長にそれを聞き対応している。ま市の介護相談員さんの毎月の訪問があり、入居者から意見を聞いてくれている。その意見を参考にホームの運営に活かしている。		利用者の意見や不満が出せるような雰囲気作りに努めたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、個々の日常生活報告書を送付している。また、ホーム紙も送付して、暮らしぶりを報告している。健康状態は、異常があれば電話連絡をし、年1回の健康診断の結果は、医師の報告書を送付している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態を担当者が記録した「日常生活報告書」、イベントでの利用者の様子や職員の異動のお知らせなどを掲載した「ホーム便り」を、毎月家族に送っている。また、金銭管理については毎月末に領収書を添付して報告している。	※	職員の異動に関してはホーム便りで知らせたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や来館時に意見等を聞いている。聞いたことは職員間で話し合い、申し送りノートや朝・夕の申し送りで徹底している。運営推進会議に家族にも参加していただいて意見を述べる機会を設けている。また、家族会も開催している。 (外部評価) 家族等の訪問時や運営推進会議上で常に問いかけ、出された意見はホーム内のケース会で話し合っ運営に反映させている。玄関に意見箱を設け、また重要事項説明書には相談苦情窓口を明記している。		家族がお世話になっているから言えないという気持ちを持たないようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会で意見や提案を聞く機会を設け、検討し、反映させている。また日々の申し送り時にいろいろな意見や提案を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員不足により、毎日最低限の人数でしか勤務が組めていない。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者は異動をできるだけ最小限にとどめている。ユニットの職員はほぼ固定化し、慣れ親しんだ職員が介護している。やむを得ず異動する場合は利用者に説明し、理解を得ている。2ユニットのため職員も入居者もみんなで行動する機会が多い。そのため混乱は少ないように思う。 <hr/> (外部評価) ここ半年は職員の異動もなく落ち着いている。異動や離職の際は担当者が引継ぎをし、全員揃う昼食時に新任者の自己紹介をするなど、ダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営者は、研修会や勉強会にはできる限り参加を促しており、職員も時間の許す限り参加している。資格取得に関しては計画性を持ってすすめている。 <hr/> (外部評価) 県グループホーム連絡協議会に所属し、職員には研修会や勉強会の情報を回覧で知らせ、受講機会の提供・費用助成を行い、受講を奨めている。職員の資格取得についても計画的に段階に応じて奨励している。職員は報告書を作成し、全員が共有できるようにしている。		新入社員の教育をきちんとしたい。研修に参加できるような体制を組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の研修会に参加している。同法人のグループホームとの交流は行事の時くらいである。		※	各グループの主任会を定期的に行い、現場の意見交換をしたい。
			(外部評価) 市介護相談員連絡会主催の会に管理者が参加したり、運営法人内施設との会議に出席し、内容をホームの各ユニットのケース会で報告し、職員に内部研修的な啓発としている。相互訪問など、職員が交流する機会は持たれていない。			
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 月1回のユニット会や、日々のミーティングなどで管理者と職員が話す機会を設け、ストレスをためないようにしている。職員個々がストレスをためないように努力している。		運営者は職員がどのようなストレスを抱えているか理解してその解消に取り組んでほしい。	
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 仕事に追われる毎日にならないよう、全てにおいて向上心を持ち前向きに職員は取り組んでいる。職員一人ひとりの資質に負うところが大きい。		向上心をもてるようそれぞれのよいところを引き出してほしい。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人・家族との面接の機会を設け、お話を聴いている。が、本人が話すことは少ない。家族の意向を聴くことが多い。			
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 電話や面接で丁寧に対応し、家族の困っていることやこれまでの経過、今後どのようにしたいかなどを傾聴している。またホーム見学等の場合は、管理者、職員ともに丁寧な対応を心がけている。			

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることや不安なことを、じっくり聞き、入居できるまで他のサービス利用を勧めたり、他施設の紹介などを行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に、家族や看護師、ケアマネ等と一緒に見学に来ていただき、お茶を飲みながら職員や入居者と談笑する時間をもうけ、少しでも不安感を和らげる努力をしている。また管理者が利用者のお宅を訪問するなど顔見知りの関係を築く努力をしている。 (外部評価) 管理者が利用者の自宅や入院先を訪問したり、家族にホームの見学をしてもらい、家族等と相談しながらサービスの利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 共に生活するもの同士として、共に働き、共に食べ、共に笑い、共に泣きの生活が送れるよう気配り、心配りをしている。利用者の訴えは側に寄り添い、聞くなど気持ちを共有しようと努力している。 (外部評価) 職員は、利用者と日々共に過ごす中で楽しみを共有したり、利用者から教えてもらったり、労わりの言葉をかけてもらうなど、相互に支えあう関係を築いている。		調理、選択物干し、掃除など一緒にしながら、利用者・職員がお互い様という気持ちを持ち続けたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は折りに触れよく訪問していただきますので、利用者の様子や職員との関わりなどを詳しく伝えている。また、お互い意見や要望が気楽に言えるよう努めている。	※	本人・家族のことは十分理解できていない。個別の情報シート作成中である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族とのつながりを断ち切らないよう、家族とふれあう機会を作っている。家族と共に楽しむ行事を計画している。		自宅へ電話や年賀状を書くなど今後も続けたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が暮らしてきた近所の方にこえかけして来ていただいている。また、仕事仲間が訪問してくれることもある。連絡を取りたい馴染みの人を聞いてみるが、ほとんどの方が名前や電話がわからない。		家族に馴染みの方を聞き、電話し、交流できるようにしたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとり個性が強いが、穏やかに過ごせるよう、職員が調整役を務めている。また、諍いなどがあれば、個別に話を聞いたり、相談に乗り、楽しく過ごせるように配慮している。		1階、2階の交流をもっとふやしたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去された後も気軽に来館できるよう家族や利用者にごえかけしている。また電話などで連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の好き嫌いや思いを常に聞き取り、できる限り希望を叶えるよう素力している。 (外部評価) 食事やおやつ、入浴時の会話等の中から、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。また、把握した情報はカンファレンスで話し合い、把握が困難な場合も全職員で本人本位に検討している。		ミーティングなどで情報を共有したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者や家族と信頼関係を作りながら、これまでの生活や介護サービス利用の事などを聞いている。また、ホーム利用前の施設や病院などからも情報をもらっている。聞き取ったことは書き留め全体像の把握に努めている。		本人・家族の話したくないこともあるので対応には十分気をつけたい。聞き取った情報の共有と守秘義務を徹底したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 職員は一人ひとりの生活リズムを理解し、体調の変化にも即対応している。		一人ひとりのリズムを大切に、個別に援助していくよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の思いや意見は、日頃の関わりの中でおおよそ把握している。それを介護計画に反映させるようにしている。毎月1回のケース会やミーティングで意見を出し合い、計画の見直しを行っている。 (外部評価) アセスメントを基にセンター方式を採用し、個別カンファレンスで課題とケアのあり方を話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		家族には計画書について説明しているが、利用者にわかるように説明していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月ケースカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。また、急に変更の必要が生じた場合は、朝ミーティングや、申し送りノートで情報を共有するようにしている。 (外部評価) ケース会で利用者の情報を確認しながら、3か月毎に見直しを行っている。また、状態の変化に応じてその都度見直し、現状に即した新たな計画を作成し、本人・家族に確認してもらっている。		家族とも介護計画について話し合いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や状態は個人の生活記録や日誌に記入している。大切なことは申し送りや申し送りノートで情報を共有している。		日々の記録を介護計画の見直しに活かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 同グループ内の施設や病院と連絡をとりながら、必要な支援を行っている。 (外部評価) 現状では要望はないが、その時々に応じて柔軟な支援をしていく姿勢がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防や公民館などと連絡を取りながら、地域の行事に参加したり、防火訓練などを行っている。また、移動図書館の利用などもしている。		公の機関やボランティアなどホームの応援者を増やしたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 家族の他施設利用の希望があれば、関連施設に連絡・相談をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員に出席していただいている関係で相談する事も増えた。また、包括支援センターの役割を家族にも知っていただけるようになった。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医が毎週往診に来てくれているので、利用者・家族・事業所は安心と信頼を寄せている。急変時はいつでも先生に相談でき、適切な対応が素早くできている。 (外部評価) 適切な医療が受けられるよう、歯科医や眼科医への受診も支援し、ホームの主治医に報告している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同グループ内の病院に神経内科があり、2週間に1回、あるいは4週間に1回の受診をし、助言や指示を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員は特によく利用者の健康管理には注意を払っている。看護職員が勤務に入っていないとき、何かあればグループの病院の看護師が相談し、助言をもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、ホームでの生活を情報提供し、本人を理解していただいている。職員はたびたびお見舞いに行き、先生や看護師と情報交換を行い、退院に備えるようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合は、他の施設を紹介し、入所の申込をしていただいている。終末期は家族はホームでと言う希望や期待が大きいですが、話し合いはまだまだ不十分である。 (外部評価) 重度化対応・終末期ケア対応指針を作成し、法人内の病院と連携して24時間体制でのケアが可能な体制を整備しているが、現段階では重度化の際には他施設を紹介している。家族はホームでの看取りを希望しており、早い段階からの本人や家族との話し合いと方針の共有が必要であるが、十分とはいえない。	※	終末期について家族や主治医と話し合いをしていきたい。 家族や本人と、入居時の早い段階、また状況の変化に応じて話し合いを重ね、急変時や重度化への方針を共有していくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 最期までホームで見てほしいと言われる家族もいるが、全ての家族と話し合いができていない。管理者も職員も終末期の利用者を看ることに力不足である。状態が悪くなったときは同グループ内の病院への入院を考えている。		看取りについて管理者・職員の学習や意思統一が必要である。また家族やかかりつけ医と支援の方法など話し合わなければならない。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 施設を住み替えるときは、ホームで生活していたときの様子や介護支援など全ての情報を提供し、住み替えがスムーズにいくよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 接遇について学び、常に人生の先輩であることを頭にに入れ、失礼のないような言葉使いをしようと心がけている。また、一人ひとりの性格やプライドを理解し、その人に応じたこえかけや対応をしている。 (外部評価) 管理者及び職員はプライバシー保護の重要性を認識しており、プライバシーを損ねるような声かけや対応をしていない。		情報は共有しなければならないが、守秘義務があることを徹底する必要がある。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員は利用者の好みをおおよそ理解している。また、利用者の能力もある程度把握しているので、その人に合った言葉かけをし、自己決定してもらっている。		待つ時間を持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的なスケジュールはあるが、概ね本人のペースに合わせた時間の使い方をしている。職員は危険と感じるとき以外は見守り、支援している。常にマイペースであり提案はするが無理強いすることはほとんどない。 (外部評価) 基本的な1日のスケジュールはあるが、食事や外出支援など、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援している。		外出の希望はなかなか叶えられない。できるようにしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服の選択やおしゃれなどは、利用者の好みでしている。時には職員がアドバイスを求められることもある。理・美容に関してはホームでしてほしいとの家族の希望があり職員が本人に希望を聞きながらカットしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者がエプロンをかけ、職員と一緒にしゃべりながら、食材を切ったり、味見したり、盛りつけたりと食事に関わることの全てをしている。できあがったものをしゃべりながら食べるのは楽しみの一つである。 (外部評価) 調理の下ごしらえ、味見、盛り付けなどを利用者と職員と一緒にし、共に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。	※	食事の準備は職員と入居者が一緒になってしている。献立を立てるとき希望を聞いていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒やたばこをたしなむ方はいない。飲み物やおやつは希望を聞き、同じものを準備している。時には、利用者と一緒にお買い物に出かけ自分の食べたいおやつを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 少しでも紙パンツの使用を少なくし、気持ちよく排泄ができるよう、排泄パターンを理解し、トイレ誘導している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴が強制にならないようまずは本人の希望を聞き、入浴している。二人で入る方もいる。入浴時にはゆったりとした気持ちで職員との会話を楽しんでいただいている。 (外部評価) 入浴時間は毎日の午後を基本として対応している。入浴の苦手な利用者には、声をかける職員を変えてみる、利用者同士お気に入りの人とおしゃべりしながら入浴を楽しめるよう配慮するなど工夫している。		湯船に入れない方はシャワー浴のみになる。入浴を楽しんでいるとは言い難いように思う。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者が横になりたいときはその方のペースで休息している。またリビングのソファでうとうとしたり、畳に座ってゆっくりくつろぐ時間を持つ方もいる。夜間寝付きが悪いときはリビングでお茶を飲んだりテレビを観たり、職員と話をするなどして過ごしている。		体調管理に努め、休息が必要な方にはすすめていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の得意とすることや好きなことを役割としている。人の役に立つ事が生き甲斐となっている利用者もいる。単調な生活の中に、季節の行事や、外出などの楽しみごとを取り入れている。 (外部評価) 調理の下ごしらえや準備・洗濯物干し・掃除など、役割を担ってもらうことで生活の張り合いになるよう支援したり、祭りへの参加、正月・誕生日・クリスマスなど季節ごとの外出・行事などで楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	※	個々の利用者の役割、できることをもっと増やしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理のできる利用者には、もってもらい、職員と一緒に買い物に行っている。お金の価値を忘れず社会との接点をいつまでも持ち続けられるようその能力のある方には自分で使えるように支援している。	※	買い物、外食など自分でお金を払う場面を作りたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望にそって毎日散歩したり、日光浴をしている。天気の良い日には、外で食事を楽しむこともある。ただ一人ひとりの遠くまでの外出の希望は叶えられていない。 (外部評価) 近くのスーパーへの買い物、散歩や、毎月のドライブに出かけ、時にはホーム前の広い駐車場で昼食を取るなど、一人ひとりの希望にそって支援している。		柔軟な勤務体制で希望が叶えられるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別の希望を叶えることはできていない。花見や紅葉狩り、外食、ブドウ狩りや柿狩りなどみんなで外出することはある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば電話をかけている。また年賀状などもやりとりしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間をもうけず、いつでも訪問できるような気さくな雰囲気作りに努めている。また来所時には自室でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する学習会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。が、転倒の恐れが常にあるので、家族にも理解を求めている。		言葉による拘束もあり気をつけたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にも居室にも鍵をかけることはない。職員は常に利用者を見守りやすい位置にいて一人ひとりの位置や様子を把握するように心がけている。 (外部評価) 居室や玄関には鍵をかけず、玄関にチャイムをつけている。職員は利用者の居場所を常に把握し、見守りをしている。		利用者の自由な暮らしを考え、心理的に圧迫しないよう今後も鍵はかけないようにしたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者がどこで何をしているのか常に把握し、安全に過ごせるよう見守りをしている。また夜間は1時間毎の巡回をし、様子を把握している。		職員は常に全員が確認できる位置にいるよう心がけている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 職員が利用者にとって危険なものは何かを理解し、自分で保管できる方は置き場所を決め保管してもらっている。職員はそこにあるか確認をしている。また、みんなで使うものは、決められた場所に保管し、使用する場合は見守りをしている。		危険なものは職員と一緒に使えば現在は問題となっていない。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故防止の方法を充分学んでいない。職員間の話し合いも不十分である。現在、嚥下がスムーズにできるよう口腔体操や下肢筋力を落とさないための運動に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当や救急時の対応マニュアルはあるが、訓練されていない。	※	消防署の協力を得て、応急手当や救急救命法を勉強したい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難誘導訓練や通報訓練、消火器の使い方など定期的に訓練している。また、運営推進会議で災害対策について話し合い、協力を求めている。緊急連絡網の作成をしている。 (外部評価) 消防署の協力のもと定期的に防火・避難訓練を行うとともに、防災マニュアルを作成して毎月ホーム独自の防火訓練を実施している。運営推進会議を通して地域の災害対策への理解が進みつつある。法人内施設間の協力体制はあるが、地域の防災組織の整備が待たれる。	※	地震や水害時の対策や訓練をしたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に家族と話し合い、理解を得るようにしている。新たに問題が発生した場合はその都度対策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 職員は普段の状態を把握しており、顔色、食欲、様子などから異常を感じたらバイタルチェックをし、様子観察をしている。情報は生活記録や申し送りノートに記入し、全員が共有するようにしている。		異常の早期発見に努め、情報を共有し、様子観察を怠りなくしたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりのお薬表が整理されており、いつでも確認できるようになっている。が、薬の目的や副作用等十分な理解はできていない。薬の変更や量が変った場合は往診記録表や申し送りノートで確認している。		利用者の抱えている病気と薬をより深く理解する事が大切である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用して、排泄パターンをつかむ努力をしている。便秘を防ぐため、散歩や体操、飲食物の工夫、水分補給などに取り組んでいる。		運動や水分補給をしても排便のない場合はセンナや下剤、浣腸に頼ることもある。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯磨きののこえかけや介助を行っている。また、寝る前は義歯洗浄を行っている。口腔ケアの記録をつけている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスに気をつけ献立を立てている。また食事量についてはそれぞれの摂取量を把握し、食べ過ぎや不足に注意している。 (外部評価) 季節の食材を取り入れるなどの工夫をしながら、職員が献立をたてている。普通食の摂取が困難な利用者にはゼリー状の食品を用意するなど、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。毎日食事摂取量を記録しているが、水分量の記録はない。	※	水分摂取に関しては、お茶など適宜準備しているが確認が不十分である。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に関して学習し、予防のための職員がしなければならないことを決めている。手洗い、手指の消毒うがいなどにみんなで取り組んでいる。インフルエンザの予防接種は利用者も職員も受けている。掃除はキッチンハイターを使って行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や調理器具、布巾等の殺菌はこまめに行い、衛生管理に気を配っている。食材は在庫表をつけ新鮮なものを用意している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに庭や畠があり、花や野菜を植えている。犬を飼い、その犬が日向で寝ころんでいる。ホームが特別な場所ではなく普通の家のような雰囲気を醸しだし、安心して出入りができるように思う。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節の花を飾ったり、家庭同様の家具を配置したりしている。壁には季節を感じさせる絵をはるなどして共用の場が気持ちよく感じられるような工夫をしている。また台所が一体化されておりご飯やおかずのいいにおいがする。 <hr/> (外部評価) 玄関やリビングには季節の花や利用者の作品を飾り、生活感や季節感がある。ホーム内に段差はなく、広い廊下は車いすも使いやすい。窓を多く取っているが外の騒音もなく、明るく落ち着いた空間である。		リビングとトイレが近いのでトイレの清潔には気をつけたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 丸テーブルと角テーブルが配置され、適度な距離を保てるようにしている。また、畳の間に座卓を置き、新聞を広げることできる。廊下には椅子を配置し、一人でくつろげるよう工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、気に入ったものを持ってきていただき、気に入った場所に配置していただいている。壁には好みの写真やポスターなどをはり、本人が気持ちよく過ごせるようにしている。 <hr/> (外部評価) 整理筆筒、テレビ、いすやテーブルなど使い慣れた物や位牌を持ち込み、家族や本人の写真、観葉植物なども飾って本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 臭いがこもらないよう天気の良い日には窓を開け換気に努めている。また朝掃除をするときは必ず窓を開け、換気をしながら掃除をしている。エアコンの温度調節は利用者にあわせこまめに行っている。		換気扇をうまく使いたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差の解消や手すりの設置、階段の滑り止め等基本的な設備は整っている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、浴室などの所在がわかるような工夫をしている。居室はプライバシーのことも考えたが、各人の家のようなものなので表札をかけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇に花を植えたり、畑の野菜を収穫したりと日常的に楽しみながら活動できるようにしている。また椅子を出して日光浴をしたりや外での食事を楽しんだりするようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の希望を第一に考えている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	日中ほとんどの利用者がリビングで過ごしており、常に職員と会話している。特に食事やおやつの時は利用者と談笑しながらゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の意思を尊重し、行事やレクリエーションも強制せずマイペースで過ごしてもらっている。疲れたら自室で横になられる方や、ベッドに寝ころんで新聞を読まれる方もいる。利用者それぞれの時間を大切にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者と職員と一緒に作業をしたりディスプレイ作りなどをしているときは達成感があるのか生き生きとされている。が、介助の必要な利用者に介助支援の意図が伝わらないときは苦痛の表情が見られる。(トイレ誘導時)
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩、買い物など希望に応じて対応している。(買い物や自宅への外出は希望があっても直ちに実施できるわけではない。職員の勤務に合わせないといけない。)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	同じグループの病院がそばにあり、異常があればすぐに受診できる。また主治医の往診が毎週ある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が利用者のことを理解し、利用者が不安に感じるときは側に寄り添い不安軽減に努めている。また利用者のことは職員全体で情報を共有し対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時など必ず家族と職員が話す時間を持っている。利用者の最近の様子や変わったことなど伝えていたり、家族の希望なども聞き出している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	運営推進会議を開催することにより以前より増えた。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議をすることにより、地域の情報が入り、行事にさそわれるようになった。利用者もできる限り参加し地域の方々と交流を深めている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員はストレスを抱えながらも、利用者の前では生き生きと明るく対応している。職員同士お互い様という気持ちを持ち、助け合っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者全ての方が毎日笑顔で過ごされている。一人ひとりのペースで強制もなくのびのびと過ごされている。自分自身(職員)が入居したいと思っている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時の会話で信頼を得られていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者とのよりよい関係づくりの為に、個々の性格を尊重し無理強いしないよう努めている。
昔話を聞いたり、自慢話を聞いたりする中で、利用者を理解し、得意分野で持てる力を発揮していただいている。
家庭的な雰囲気作りに心がけ、全員が参加できる行事を多くし、退屈しない楽しい毎日を送っていただけよう努めている。